



各位

2026 年 8 月 4 日
株式会社 ABEJA

**ABEJA、NEDO の採択を受け、一般社団法人 AI データ主権共創機構（CODAS）が進める
「データの秘匿性を考慮した効率的な AI 学習手法の開発」に参画
～ プライバシーファースト AI の確立に向けて「産業特化型 LLM」の開発を推進 ～**



人と AI の協調により「ゆたかな世界を、実装する」株式会社 ABEJA（本社：東京都港区、代表取締役 CEO：岡田 陽介、以下「ABEJA」）は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下「NEDO」）が進める「ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業※1／データの秘匿性を考慮した効率的な AI 学習手法の開発」（以下「当該事業」）に参画することをお知らせいたします。

当該事業は、企業がセキュリティリスクを懸念することなく産業データを安全に利活用できる「プライバシーファースト AI」の確立を目的としたものです。

ABEJA は、当該事業の実施委託先として採択を受けた一般社団法人 AI データ主権共創機構（以下「CODAS」）より委託を受け、中核の一つである「産業特化型 LLM」の構築を担います。

関係各所と連携し、各産業のニーズに応える高性能な LLM の構築を推進するとともに、安全な AI 活用の推進に貢献してまいります。

■ 背景

ABEJA は、「ゆたかな世界を、実装する」を経営理念に掲げ、ABEJA Platform を中核に、顧客の AI 活用を実運用として成立させ、継続的な高度化を実現するエンタープライズプラットフォーム事業を展開しています。ABEJA Platform は、AI を PoC（概念検証）ではなく実運用として成立させ、Agentic AI による意思決定と Physical AI による実行を統合することで、データ、意思決定、オペレーションを一体的に扱い、リアル空間における業務の高度化を支える実装基盤です。また、人と AI が協



調する「Human in the Loop」を前提としたアーキテクチャの元、初期段階から AI の実運用を可能にし、「ゼロ PoC」を実現します。これにより、ミッションクリティカルな業務においても、AI を業務プロセスに組み込みながら継続的に高度化することが可能です。

CODAS (Co-creation Organization for Data Sovereignty & AI) は、「安心安全な AI 社会」の実現を目指し、データプライバシー技術の研究開発とオープンソース化による社会実装を推進する非営利の一般社団法人です。

現在、LLM の利活用が急速に進んでいますが、未だ約 7 割の企業が「データ漏洩」や「プライバシー侵害」といったセキュリティリスクを懸念し※2、間違いが許されないミッションクリティカル業務における導入に慎重であるのが現状です。

また、クラウド型の汎用的な LLM は利便性が高く、幅広い用途に対応可能な一方、機密データを外部クラウドに出さず自社の管理下で保持・利用できる「データ主権」の確保において課題が生じます。

こうした状況下、企業が自社の産業データを国内で安全に管理・運用できる「プライバシーファースト AI」の確立を目的に、当該事業が開始されました。

ABEJA は、CODAS より、これまで当社が培ってきた LLM 及び周辺技術に関する研究開発、エンタープライズにおける AI 実装の実績を評価いただき、当該事業の中核となる「産業特化型 LLM」の構築を担うこととなりました。

■ 概要

当該事業は、「データ秘匿化技術の研究開発」と「産業特化型 LLM の構築」の 2 つを柱としています。当該事業で開発された秘匿化技術やモデルは順次オープンソースとして公開され、国内企業が安心して利用できる「プライバシーファースト AI」のエコシステムの構築を目指します。

ABEJA は、厳格なデータ保護と高い専門知識が求められるエンタープライズのミッションクリティカル事業に適用可能な「産業特化型 LLM」の構築を行います。初期段階では、金融・保険領域を対象とし、その後、製造業をはじめとする他基幹産業に向け、順次対象を拡大していく予定です。

なお ABEJA は、高度なセキュリティ要件をみたしながら複雑なタスクを効率的に処理できる LLM の構築及び実証を、「データ主権」が確保され、かつ処理過程の情報を暗号化して保護するセキュリティ技術「コンフィデンシャル・コンピューティング」を活用した環境下で行います。2026 年 6 月に「ABEJA Platform」への搭載を発表した NVIDIA の最新モデル「NVIDIA Nemotron 3」も活用することを予定しております。

参照：[ABEJA、NVIDIA の最新モデル「NVIDIA Nemotron 3」を ABEJA Platform に搭載](#)

ABEJA は、引き続き、ABEJA Platform を通して、ミッションクリティカル業務における AI 活用を支援し、産業構造の変革を推進します。



■ 事業概要

公募事業名：ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業／データの秘匿性を考慮した効率的な AI 学習手法の開発

採択事業テーマ：秘匿性を基盤とした産業特化型 AI 基盤の研究開発・実装実証

実施期間：2026 年度から 2028 年度まで

NEDO 公表内容：https://www.nedo.go.jp/koubo/CD3_100405.html

CODAS 公表内容：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000175496.html>

※1 ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業：日本国内におけるポスト 5G 情報通信システムの開発・製造基盤強化を目指し、中核となる技術を開発する事業。ポスト 5G 情報通信システムとは、第 5 世代移动通信システム（5G）より更に超低遅延や多数同時接続といった機能が強化されたポスト 5G に対応した通信システムを指します。

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/joho/post5g/index.html

※2 総務省「令和 6 年版 情報通信白書」：

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r06/html/nd151120.html>

■ 一般社団法人 AI データ主権共創機構（CODAS）について

CODAS（Co-creation Organization for Data Sovereignty & AI）は、「安心安全な AI 社会」の実現を目指し、データプライバシー技術の研究開発とオープンソース化による社会実装を推進する非営利の一般社団法人です。現在、多くの企業が AI 活用を進める一方で、機密情報の漏洩リスクやデータ主権の喪失といった課題に直面しています。CODAS は、データを外部に出さずに AI を高度活用できる「Privacy-First AI」基盤の構築を通じて、これらの課題解決に取り組めます。

URL：<https://codas-ai.org/jp>

■ 株式会社 ABEJA について

ABEJA は、「ゆたかな世界を、実装する」を経営理念に掲げ、ABEJA Platform を中核に、顧客の AI 活用を実運用として成立させ、継続的な高度化を実現するエンタープライズプラットフォーム事業を展開しています。ABEJA Platform は、AI を PoC（概念検証）ではなく実運用として成立させ、Agentic AI による意思決定と Physical AI による実行を統合することで、データ、意思決定、オペレーションを一体的に扱い、リアル空間における業務の高度化を支える実装基盤です。また、人と AI が協調する「Human in the Loop」を前提としたアーキテクチャの元、初期段階から AI の実運用を可能にし、「ゼロ PoC」を実現します。これにより、ミッションクリティカルな業務においても、AI を業務プロセスに組み込みながら継続的に高度化することが可能です。

本社：東京都港区三田一丁目 1 番 14 号 Bizflex 麻布十番 2 階

設立：2012 年 9 月 10 日

代表：代表取締役 CEO 岡田 陽介

事業：顧客の AI 活用を実運用として成立させ、継続的な高度化を実現する「エンタープライズプラットフォーム事業」

URL：<https://abejainc.com>